

美しく豊かな自然、そして祭り、イベント、水遊び、 菊池川の水辺は郷土の大切な財産です。

○菊池溪谷の自然

菊池川の自然を代表する菊池溪谷。ここにはケヤキ林、モミ林、ブナ林などの自然林があり、ヤマセミやカワセミといった清らかな水域を象徴する鳥類が生息しています。水域にはヤマメやタカハヤなどの魚類がみられ、カワノリが生育しています。

菊池溪谷には年間約100万人の人々が訪れるといわれ、自然観察やバードウォッチング、水遊びなど自然指向のレクリエーションの場として愛され、親しまれています。

○菊池川の水辺利用

菊池川の水辺は、出初め式やどんどや、山鹿市の灯笼まつりといった行祭事の舞台となっています。

また、カヌーやイカダ下りなどのイベントも行われ、活気にあふれています。

釣りや水遊び、川べりの散歩など菊池川の水辺空間は、大切なやすらぎの場を提供しています。



治水

洪水を治めるため、工夫をこらし、さまざまな努力が続けられています。

流域は古くから梅雨や台風のころの洪水に苦しめられてきました。

これをおさめるため本格的な治水事業に最初に乗り出したのは加藤清正とされています。この時、川に向って鋸の刃のように石垣を突出した「水勿（みずはね）」や土手が崩れるのを抑さえる「乱杭（らんぐい）」などの氾濫防止の法がとられたといわれます。

そして昭和15年、近代的な改修工事が国の直接の仕事として始まり、現在、竜門ダム等の上流ダム群により洪水調節を行なう計画が進められています。

○菊池川の利用計画

近年、川ぞいの市町村では、菊池川の水辺を活用した水辺公園や緑地、運動場などを整備するさまざまな計画を進めています。

菊池市、山鹿市、玉名市、そして菊水町、七城町など多くの市町村において、いろいろな形で、菊池川の水辺に対する利用計画が進行しています。



利水

菊池川の水は、飲み水となり、水田を潤し、そして発電にといろいろな使われ方をしていきます。

